

地域課題・目指す将来像

地域
課題

- がんの相談窓口(がん相談支援センター)の認知が不足しており、信頼性の低い情報も含まれるインターネットを使って治療や病院に関する情報を収集する市民も多く、誰もが必要なときに正確で信頼できる情報へアクセスできる仕組みづくりが急務。
- 自治体でのAI活用が求められる一方、「正確性」「責任の所在」「専門家関与」をどのように担保するかが全国共通の重要な課題。
- 各自治体が迅速に本サービスを導入できるよう、支援情報の取込みや更新を標準化した運用モデルの整備を進めていく必要がある。

将来像

- がんの情報が多い中でも治療理解の促進が可能となり、患者や家族が安心して療養に向き合える環境づくりに貢献する。
- 医療従事者にとっては、説明補助ツールとして活用できるほか、基本的な相談対応をAIが担うことで、タスクシフトによる業務の効率化に寄与する。

推進体制

名称：横浜市未来技術社会実装協議会

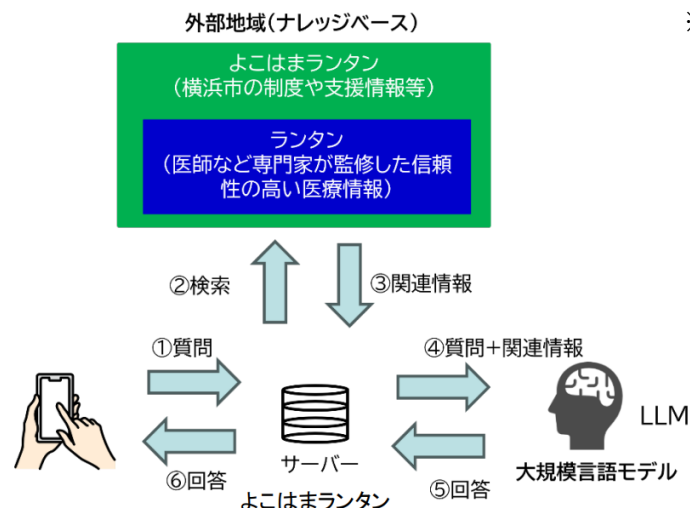
地方公共団体	横浜市
国（★は現地支援責任者）	★厚生労働省（関東信越厚生局）、総務省（自治行政局）、経済産業省（関東経済産業局）
民間事業者	(一財)在宅がん療養財団、(株)みちのとう、(株)セル、(株)sambo、(株)デンクー、(株)シャルクス

課題解決に向けた取組

① 生成AIを活用した自治体相談サービス「よこはまランタン」の全国展開モデル構築事業【AI】

○ 信頼できる医療・支援情報へのアクセスを整備

- ・ 一般財団法人在宅がん療養財団が開発・運用してきた生成AIがん相談支援ツール「ランタン」を基盤として、横浜市の制度や支援情報等を新たに組み込み、地域版の「よこはまランタン」を構築。
- ・ 生成AI(GPT)と検索拡張生成(RAG)※を組み合わせることで、医師など専門家が監修した信頼性の高い医療情報に加え、横浜市独自の制度・支援情報をスムーズに検索・参照できる仕組みを実現する。



※検索拡張生成(RAG)
生成AI(LLM)に外部知識(ナレッジベースなど)を組み合わせ、より正確な回答を生成する技術。

○ 24時間利用できるAI相談による市民支援の強化

- ・ スマートフォン等から、症状・治療等の疑問だけでなく、自治体の生活・支援などを匿名・無料で24時間相談できる仕組みを提供しており、幅広い内容をAIに相談することが可能。